

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	くらしの安全課	
施策	8	安全・安心な暮らしの確保	評価 責任者	高橋 智巳	内線 2680
小施策	8-4	交通安全の推進	評価 シート 作成者	大庭 治彦	内線 2681

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市の交通事故発生件数は、15年以降、減少傾向が続いているが、高齢者が関係する交通事故の割合が増加傾向にあること。また、市内における全交通事故に占める自転車事故の割合が県に比べ高いことから、高齢者及び自転車利用者の事故防止啓発活動に重点的に取り組む必要がある。		警察や交通安全協会と連携しながら、子どもから高齢者まですべての人が交通事故から守られるよう、特に高齢者に重点を置きながら効果的な交通安全教育・啓発事業に取り組む。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民		交通事故の被害に遭わないようにする。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移			
指標①	単 位	目指す方向	
人口1万人当たりの交通事故発生件数	人	→	
当初値 (H25)	28.0	R1目標値	28.0
		R6目標値	28.0

年度	発生件数
当初値 (H25)	28.0
H27	25.8
H28	22.0
H29	21.4
H30	18.4
R1	18.7
R2	
R3	
R4	
R5	
R6	

実績の評価	
成果点	成果の要因分析
・交通事故発生件数は減少傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導専門員・交通指導員による交通安全教室を開催し、交通安全知識の普及と意識の高揚に努めた。 交通指導員による、朝夕の街頭指導やイベント開催時の誘導などにおいて交通事故防止に努めた。 警察や交通安全協会等交通安全関係機関との連携による、街頭での啓発活動を実施した。
問題点	問題の要因分析
・高齢者が関係する交通死亡事故の割合が高い。	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進展により、高齢の歩行者や運転免許保有者が増加している。 高齢者に対する交通安全啓発について、学校で開催する交通安全教室と異なり、高齢者が多数集まる場での啓発の実施が難しい。 高齢者の交通安全啓発は、歩行者だけではなく車両運転者に対する啓発も必要である。

今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 病院など高齢者が利用する施設において交通安全啓発活動を実施する。 ★ 老人クラブに対して交通安全教室実施案内を送付する。 ★ 市ホームページへ交通安全教室開催案内を掲載する。 ★ 高齢車両運転者に対する安全運転啓発を実施する。 	